自　立　支　援　計　画　票　（第　一　次）

NO2

長　期　目　標

長期目標	①周りに影響されずに善悪の判断をし、適切な行動がとれるようになる。 ②暴力に頼らず、感情をコントロールして、適切な自己表現が出来るようになる。 ③高校進学を目指せる学力を身につけられるようになる。 ④家庭との関係修復を行い、本児の居場所と感じられるような家庭環境を築く。

短　期　目　標（優先的重点課題）

支援上の課題（問題）	支援目標	支援内容・方法	支援の留意点
・自身の立場を理解せず、周囲に流され非行行動や学校での逸脱行動が繰り返されている（長期目標1）	・規則正しい生活習慣を身につけ、モデルとなる職員との交流の中から適切な表現を学んでいけるよう支援する	・日々の生活の中で、責任感を体得できるような内容を提示し成功体験を積むことで、成長を自覚できるよう支援していく	・承認欲求から誇張した表現や行動を見せることで非行グループへ依存と仲間意識を強化し存在意義を見いだしていたようであるため、自分自身の素直さや特徴を理解させ、適切な行動を身につけていくよう支援する
・非行文化の影響を受け、暴言や暴力等の不適応行動がある（長期目標2）	・言葉遣いに注意し、相手や場に応じた言葉で話せるようになる	・寮生活や分校生活を通じ、適切な距離間や表現方法を身につけていけるよう具体的に教えていく ・振り返り表を用いて、日々の行動について自覚を促し、適切なコミュニケーションスキルを身につけるよう支援する	・同上
・学年相応の学力が身についてなく、学習に遅れがみられる（長期目標3）	・各教科の学力の遅れを認識し、授業に定着できるようになる	・分校の授業スタイルに定着できるよう支援する ・各教科の学習進度を把握し、それぞれの教科について個別的支援も入れながら学力強化に取り組む	・小学校高学年頃より、学校への不適応行動がみられるため、先ずは、通常の学校生活や授業スタイルを体得させる ・その習慣化が概ねできるようになり、学習への興味関心を強化していくような支援方法を検討していく
・過去の生育史の影響や非行グループトの交流の深化により、家族関係が悪化している（長期目標4）	・非行行動に至った原因理由を自覚し、親子の関係修復に向けた双方のズレを確認、調整を図る	・本児に対して、母への拒否感情を聴取傾聴したうえで、適切な表現ができるよう支援する ・母の養育への不安や喪失感を軽減する取り組み（面会や手紙のやりとり）を行っていく。	・表面的には母への拒否感情がでているが、本心は母が好きであると思われる。 ・母子関係の歴史を丁寧に確認し、双方の意向を確認しながら関係調整を図っていく

家　庭　復　帰　支　援　計　画

家庭への支援方針	【ストレングス（強み）を考慮】	交流計画	【面会・外出・外泊の方法や時期　等】
・母には本児の学園での生活の様子を定期的に伝え、特性に合わせた養育のあり方を助言していく。 ・児童相談所や原籍校と連携し、卒園後の生活環境の方針を確認していく。 ・母の養育への不安や喪失感を軽減する取り組み（面会や手紙のやりとり）を行っていく。		・現在は、本児の母への拒否感情が強いため、面会交流は難しい状況だが、過去の養育の確認や母子双方の感情のすれ違いとなった内容を確認し、状況を観ながら手紙や面会など増やしていき関係の構築を図っていく。	

地域の社会資源とその役割（児童相談所、学校、市町村　等）

施設（寮・分校）	児童相談所	原籍校	
【寮】 ・園内の生活に適応をはかりながら、本児との信頼関係の構築に努め、特性を把握した上で適切な支援・指導を行う。 【分校】 ・分校生活への適応を図りつつ学力把握に努め、個別的支援取り入れながら学力の遅れを取り戻していく。	・母の子育てに共感しつつ、本児との関係悪化に至った理由や養育困難になった原因をさらに確認し、養育環境の整備に対する助言指導を行う。	・入所中の行事参加や面会交流を重ね本児との関係を維持していくような関わりを行う。 ・本児と交流のある児童の情報共有を図りながら、非行グループへの指導を継続していく。	

児童相談所の意見

・先ずは施設生活への適応を図り、規則的な生活習慣を身につけ、年齢相応の成長となるよう支援していただきたい。
・親子が離れて生活することによるメリットを生かし、双方の気持ちをくみながら親子間のズレを調整し、家族再統合ができるよう施設と児相が共働して取り組んでいく。

自立支援計画票（第二次） ステージⅢ

児童名　　判定日　入所後8ヶ月

長期目標	長期目標の現状・成果
①周りに影響されずに善悪の判断をし、適切な行動がとれるようになる ②暴力に頼らず、感情をコントロールして、適切な自己表現が出来るようになる ③高校進学を目指せる学力を身につけられるようになる ④家庭との関係修復を行い、本児の居場所と感じられるような家庭環境を築く	①「目標」を定めそれを実行しようとすることで自信ができつつある ②キャプテンを経験したり、様々な場面で表現機会が増え前向きである ③学習の定着が図られ、各テストでも成果が出てきている ④面会交流が少しづつ進んでいる

短期目標（優先的重点課題）（入所後2ヶ月～8ヶ月）

	目標	本人の評価	寮の評価	分校の評価	今期の目標およびその支援方法	
①	・様々な場面において自分で善悪の判断を行い、ぶれない強さ、周りの見本となる立ち振る舞いが出来るようになる（長期目標1）	・出来ていたと思う。イベント、行事等の時に「これしようや」と言われても、自分で判断して行動出来はじめた	・「目標」を定めそれに向かって努力できている。周囲との関係の持ち方も距離を測りながら適切な対応をとっている	・概ねできているように思う。今後も継続できるよう支援していく	目標	・善悪の判断を自分でできるようにし、周囲の手本となれるようにする
					方法	・インケアでの判断力、家族交流場面での判断を見極め、適切な助言をしていく
②	・先生や先輩たちに丁寧な言葉遣いを意識するとともに、「場」に応じた発言ができるようにしていく（長期目標2）	・先生には出来ている。先輩にもだいぶ良くはなってきた	・意識はあり実際に向上している。ただ、人によっては先輩にも歯に衣着せね物言いになる場面がある	・できていると思う。指摘すれば修正でき、不適切な言動になることはほとんどなかった。	目標	・感情をコントロールしながら自身の気持ちを伝えられるようにしていく
					方法	場面や年少者への対応に注意し、適切な表現方法を助言する
③	・リーダーとして行動できる（周囲に前向きな声かけ） ・定期テストで自己目標を超える（長期目標3）	・あんまり分からないが、朝ジョグなどでは周りへも前向きな声かけはしている ・自己目標は、中間テスト・期末テストともに超えている	・キャプテンを経験し大きく成長がみられた。他者に優しい声かけがができる ・自主学習の課題をサポートしてきた成果が出ている	・学級で常に意識させてできるようになってきた ・中間・期末テストとも目標点を超えることができた	目標	・学力向上を図る
					方法	・各教科のばらつきをなくし、原籍校での適応を視野に学力向上を図る
④	・行事や帰省などを活用し、感情のもつれを解き、親子交流を進めていく（長期目標4）	・親にも少しずつ気持ちを伝えられるようになってきた	・母は学園の支援に理解を示し、行事にも参加してくれている。 ・帰宅訓練を数回実施し、少しずつ親子間の会話が増え良好な関係になりつつある。		目標	・退所後の姿を想像し、少しでも本音で話せる親子関係の維持を目指す
					方法	・帰宅訓練を重ねながら表出してくる課題に適切な助言をしていく

日常生活の評価

	支援項目	本人評価 月 日	寮 評価 月 日	分校 評価 月 日
生活習慣	周りにも配慮しながら、日課に沿った生活ができる	4	4	4
	身の回りの整理整頓をして、清潔を保った生活ができる	5	3	3
	他者からの声かけではなく、自発的に準備できる	4	4	4
ソーシャルスキル	日常生活の中で必要な挨拶ができる	3	3	3
	困ったとき職員に相談できる	3	3	3
	声かけに対して素直に返事をすることができる	4	4	4
認知の変容	ルールを守れなかった時に振り返ることができる	3	3	3
	職員や他児からの注意・指摘を認めることができる	3	3	3
	自分がつまづくパターンに気づくことができる	3	3	3

	支援項目	本人評価 月 日	寮 評価 月 日	分校 評価 月 日
感情面の発達	暴力的にならず気持ちを切り替えることができる	3	3	3
	不快な言動や暴言がでたときでも一度の注意で直すことができる	3	4	4
	自分の感情（内面の状態）に気づける	3	3	3
関係性の構築	相手の気持ちを考えて行動できる	3	3	3
	集団生活の中で協力し合うことができる	4	3	3
	周りからの指摘を理解できる	3	3	3

達成度	評価基準
90～100%	5 ： 自身の判断、行動で恒常的に実行できる
80%程度	4 ： 概ね自身の判断、行動で実行できるが、時々職員の助言が必要
50%程度	3 ： 半分程度の理解・実行状態で、定着とは言い難い
20～50%	2 ： できないことが多い。その都度、指導が必要な状態
20%以下	1 ： 殆ど実行できていない。拒否的状態

家庭への支援（親子関係の現状、支援内容）

・母は、面会や行事へ積極的に参加し協力的である。本児は、入所当時の母への拒否感情は和らぎ、親子関係は修復しつつあるようにみえる。しかしながら、地域の交友関係の影響を受けたり、些細なことでの関係不調が起こる可能性は高いため、引き続き、帰宅訓練を含めた交流機会を通じて、親子に対する助言や関係修復の方法などを支援していく。原籍校の交友関係では、依然として本児の上級生に生活が不安定な児童がおり、影響を受ける可能性があるとの学校情報であるため、本児にもある程度その状態を伝え、今後の試験登校に備えた交友のあり方を支援していく

各機関の今後の役割（いつまでに・何をするか）

施設（寮・分校）	原籍校	児童相談所	
・リービングケアへの適応に向けた生活支援と学習支援を強化していく	・非行グループは、以前に比べると安定傾向のようだが、数人不安定な児童もいるとのことで、校内生徒指導と本児との関係作りを強めていく	・学園からの情報をもとに親子に会い、関係構築の状況を把握する。また、学校の状態を把握し、非行グループの他児への指導を継続する	

児童相談所の意見

・学園の支援により、本人の成長と親子関係の修復が図られつつあると思われる。
・今後、家族との関係修復状況を見守りながら、地域復帰（試験登校）に向けた取組を実施していくことが適当とは考えるが、過去の非行グループとの関係や親子の関係不調が起こる可能性もあるため、状況を見極めながら進めていく必要があると思われる。

自立支援計画票（第三次） ステージⅣ

児童名　　判定日　入所後1年2ヶ月

長期目標	長期目標の現状・成果
①周りに影響されずに善悪の判断をし、適切な行動がとれるようになる ②暴力に頼らず、感情をコントロールして、適切な自己表現が出来るようになる ③高校進学を目指せる学力を身につけられるようになる ④家庭との関係修復を行い、本児の居場所と感じられるような家庭環境を築く	①寮責となり、リーダーとしての自覚ができ行動にも反映されている ②こちらの意図を感じながら話すことが出来るようになってきたと感じる。 ③園内の授業には適応しており学力も向上している ④協力的な関係は維持できており、家庭復帰に向けた準備をしている

短期目標（優先的重点課題）

	目標	本人の評価	寮の評価	分校の評価	今期の目標およびその支援方法	
①	・善悪の判断を自分でできるようにし、周囲の手本となれるようにする	・出来てきた。先輩である卒園生の真似から入って、それを自分のオリジナルな行動に変化させてきた。	・寮責となり、より見本として振る舞う意識が芽生えてきており、後輩への声かけにもつながっている。	・他人の考えより、自分の考えを大切にさせ、強い自信を持たせたい。そのために本児が努力していること、又はクリアできたことを評価し、充実感を味わうことが出来るようにしてきた。	目標	・これまでの学園生活を活かし、周りに影響されずに善悪の判断をし、その場に応じた適切な行動をとれるようになる。
					方法	・非行グループの現状把握と本児がそれらの児童に対処するための具体的な対応方法の助言
②	・感情をコントロールしながら自身の気持ちを伝えられるようにしていく	・コントロールは出来てきた。頑固になることも少なくなった。周り（弟などにも）を優先できるようになってきた。	・話しているときに、落ち着いて、こちらの意図を感じながら話すことが出来るようになってきたと感じる。	・学級内でも級友を引っ張っていけるリーダーとしてプラスになる発言と行動を心がけてきた。	目標	他者の意見との折り合いをつけることを身につけていく
					方法	意見の相違がある場面で、相手の立場を理解し話し合いで解決を図るよう支援する
③	・学力向上を図る	・授業によって場に応じた対応をしている。英語ならよくしゃべる、逆に社会では静かに受けている等。	・分校の指導と連携しながら取組み、寮での学習も一生懸命やっている	・本児が少しでも不安を抱いて帰ることの要因を減らすため、原籍校の定期テスト等、連絡を取り合い、十分な準備をしておく。	目標	・原籍校の授業についていける力を目指していく。
					方法	・基礎学力の定着を図るため、自信の無い教科の未習熟分野における課題に取り組み、知識の向上を目指す。
④	・退所後の姿を想像し、少しでも本音で話せる親子関係の維持を目指す	・帰宅訓練などで家族と本音で話せるようになってきた。母や兄との関係は心配してない	・インケアでの協力関係は維持できており、今後、本児の引き取りに向けた準備をしてくれている	・参観日や行事などへの参加、協力的であった。	目標	・親子の意向を尊重しながらも親子間の関係不調や問題行動があった場合には、関係機関と連携した対応をとる
					方法	・保護者、本児、関係機関との綿密な情報共有を行い、適切な支援連携を行う

日常生活の評価

	支援項目	本人評価 月 日	寮 評価 月 日	分校 評価 月 日		支援項目	本人評価 月 日	寮 評価 月 日	分校 評価 月 日
生活習慣	学園の日課や決まりは確実に実行できる	5	4	5	感情面の発達	クールダウンの方法を身につけ、実践できる	4	4	4
	嫌なことでも自分の気持ちに整理をつけて自発的に行動できる	4	4	4		納得がいかないことに「折り合いをつける」ことができる	4	4	4
	他者の持ち物等を大切に思い、扱おうと努力することができる	5	5	5		相手や周りが不快になる行動や暴言を言わない	4	4	4
ソーシャルスキル	場面や相手に応じた話し方、対応ができる	4	4	4	関係性の構築	困った時に、大人に相談しながら解決方法を見つけていける	4	4	4
	自分の思いを諦めず、落ち着いて伝えることができる	4	4	4		自分の役割を果たし、職員の信頼に応えようと努力する	5	5	5
	誰に対しても不快な言動がなく、ごまかしのない対応ができる	4	4	5		卒園後の家族・学校の状況を受け止める事ができる	4	4	4
認知の変容	自分の課題だけでなく、周囲の課題にも目を向けることができる	5	4	4					
	先のことを考えて行動し、順序立てて考えることができる	4	4	3					
	自分の考え方の癖を知り「どうあるべきか」を考え、それに向けて努力できる	3	3	3					

達成度	評価基準
90～100%	5 ： 自身の判断、行動で恒常的に実行できる
80%程度	4 ： 概ね自身の判断、行動で実行できるが、時々職員の助言が必要
50%程度	3 ： 半分程度の理解・実行状態で、定着とは言い難い
20～50%	2 ： できないことが多い。その都度、指導が必要な状態
20%以下	1 ： 殆ど実行できていない。拒否的状態

家庭への支援（親子関係の現状、支援内容）

・インケア、リービングケアをとおして、親子関係は概ね修復してきた。親子ともそのことで自信が出てきており、今後の試験登校にも「不安はあるがチャレンジしてみたい」との意向である。母の仕事や養育状況についても、不安はあるが家族で協力し合いながら維持できる状況だと考えている。
・一番の不安材料は、本児の上級生との関係をどのように保っていけるのかだが、試験登校を実施しながら見極め、不適応行動が出てきた場合は、試験登校を取りやめ、園内での支援を継続していく予定である。

各機関の今後の役割（いつまでに・何をするか）

施設（寮・分校）	原籍校	児童相談所	
・試験登校、家庭復帰に向けて準備、助言を継続する	・本児の学校への適応、交友関係の状況把握を行い、学園・保護者と連携した対応をとる	・試験登校中は、家庭訪問・学校訪問を行い適応状態の把握に努める。また不適応場面が出てきた場合など、一時保護を考える。 ・非行グループ内の他児への指導を継続しながら、本児の情報も把握する	

児童相談所の意見

・試験登校を実施し、家庭復帰・学校復帰を試みることが適当と考える
・試験登校中（措置停止中）は、家庭訪問・学校訪問を行いながら状況把握し、解除判断の適否を行う